

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：82619

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23682002

研究課題名(和文) 絵巻の 伝来 をめぐる総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study of the Tradition of Hand Scrolls

研究代表者

土屋 貴裕 (TSUCHIYA, Takahiro)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・研究員

研究者番号：40509163

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、絵巻の研究を、従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉え直そうとするものである。絵巻をはじめとする美術作品は、新たな所蔵者や鑑賞者を得ることでその「価値」を増幅させ、今日まで伝来してきた。本研究はこれら美術の「価値」形成のプロセスの一端を、絵巻を素材として検証し、絵巻が日本文化史上果たした史的意義を考究することを最終的な目標として設定した。

研究成果の概要(英文)：The present study approaches the research of hand scrolls from a non-conventional point of view employing various additional information surrounding hand scrolls, such as the history of its tradition or appreciation. Traditionally, the "value" of hand scrolls and other works of art has been amplified with every new owner and appreciator they have acquired. This study verifies the process of "value" formation of works of art, focusing on hand scrolls, in order to consider their historical significance in the cultural history of Japan.

研究分野：日本美術史

キーワード：絵巻 伝来 日本絵画 やまと絵

1. 研究開始当初の背景

今日、私たちが眼にすることのできる美術作品が、多くの人々の存在を介して伝えられてきたことは言うまでもない。現存する美術作品は、制作から今日に至るまでの過程において、多くの所蔵者の手を経て、また多くの鑑賞者を得ることで残されてきたものであり、その都度その都度、人々の様々な思いや記憶、当時の文化的な状況や社会的なコンテキストを集積しつつ、伝えられてきた。

美術作品の研究に際して、これら作品の伝来や鑑賞歴といった付属情報は、作品の文化史的意味やモノをめぐる「評価」を跡付ける観点から、作品そのものと同様の関心が払われてきた。本研究が対象とする絵巻作品に関しても、限られた著名な作品に関しては、これら作品の付属情報に多大な関心が払われてきた。だが一方で、多くの絵巻研究においては、伝来や鑑賞歴に関わる議論が十分に成されてきたとは言いがたい。こうした研究状況から本研究は開始された。

2. 研究の目的

こうした研究状況を踏まえ、本研究は、絵巻の研究を、従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉え直そうとするものである。絵巻をはじめとする美術作品は、新たな所蔵者や鑑賞者を得ることでその「価値」を増幅させ、今日まで伝来してきた。本研究はこれら美術の「価値」形成のプロセスの一端を、絵巻を素材として検証し、絵巻が日本文化史上果たした史的意義を考究することを最終的な目標として設定した。

これまでの絵巻研究では、作品の制作背景、すなわち、いつ、誰が、どのような目的で作品を作ろうとしたのか、またどの画派・工房で、誰が筆をとったのかという、作品がこの世に誕生したその瞬間をめぐる議論に主な焦点が当てられてきたと言える。来歴を明確に記す資料に恵まれまいとは言え、制作後の絵巻作品の時間的・空間的な移動や鑑賞に関する研究は十分なされてこなかった。

これらの伝来情報は、それぞれの作品を語る上での基本事項として各論考において言及されているが、それは参考情報として簡単に触れられるか、注文主を伝来情報から溯って特定するための手段として用いられるに過ぎなかった。絵巻という美術作品が経てきた数百年の伝世の軌跡、すなわち作品の時間的・空間的な移動や作品の鑑賞歴といった作品の有する通時的な歴史性に対して、大きな関心が払われてきたとは言いがたい。

絵巻作品がどのような伝来を経てきたのか。誰のもと(どこ)を移動し、誰によって鑑賞されてきたのか。本研究は、絵巻の伝来という事象に注目し調査研究を進めるも

のである。実作品の調査を経て得られる、作品そのものから引き出される情報とともに、作品の伝来・移動・鑑賞といった付属情報(メタ・データ)を集積することで、それぞれの絵巻のたどった移動・鑑賞の歴史や、作品がいまここに残されているという事実そのものの意義を、美術作品の「価値」形成の側面から捉え直すことを試みるものである。

あわせて、これらの成果を個別作品の内に留めることなく、広く絵巻の享受史の中に位置付け、絵巻という媒体の果たした歴史的役割を位置付けることを通じて、今後の絵巻研究を推進する上での新たな視点を提示することを、一つの目標として設定した。

研究にあたっては、個別作品の伝来、鑑賞歴に関わる情報を収集・蓄積することがまず大きな課題となる。そのうえで、絵巻が今日に至るまでにどのような軌跡を経て伝世したのかという、各作品の通時的な歴史性に配慮しながら、絵巻という媒体全体を視野に入れた分析を個別の作品研究を通じて試みた。

ところで、絵巻を研究する際、まず手に取るべき「辞書」とも呼ぶべき著書が梅津次郎監修『角川絵巻物総覧』である。ここでは、個別作品の概説や研究論文やコンパクトにまとめられている。ただ、この『角川絵巻物総覧』が刊行されてからおよそ20年。新たな視点、新たな媒体での「新・絵巻物総覧」が望まれている。本研究によって得られたデータを集約することは、こうした新たな研究資料集成を刊行するための第一歩ともなるものである。

2. 研究の方法

本研究においては、まず絵巻の伝来情報を網羅的に収集することが必要となる。情報の蓄積は、諸資料からの抽出、作品調査の二つの方法を取り、個別の作品に付随する奥書、極、箱書、添状、また古文獻等に記される所蔵、伝来情報を収集した。

具体的には、以下の三点が大きな方法となった。

文献資料記載絵巻関係資料の抜出とデータ化

本研究が主な対象とする古代中世絵巻の伝来、鑑賞情報を得るためには、日記、古記録等の文献資料を博捜し、そこに記載された本文を整理する必要がある。抜き出しにあたっては、絵巻のみならず関連する絵画作品である仏画、肖像画、屏風等、絵画関係の記事をピックアップし、データ化した。

こうした試みは従来なされたことはなく、得られたデータは絵画史研究のみならず、広く日本文化史の研究に寄与する極めて有益なデータとなる。

売立目録の調査

上記のと次に述べるが前近代における絵巻情報の収集と整理であるのに対し、近代における作品の移動等を追うため、売立目録に記載された絵巻の調査を進めた。とりわけ、東京文化財研究所には国内有数の売立目録が所蔵されており、その全てから、絵巻を中心とするやまと絵の情報を抜き出し、PDF化を進める準備を整えた。

絵巻模本の調査

絵巻模本の多くは近世に作られたが、その制作に際して、所蔵者や伝来等の情報が記されている場合がままある。ただし、こうした絵巻模本は原本の研究に比して立ち遅れていることは否めない。

本研究では、東京国立博物館所蔵絵巻模本の悉皆調査を目指し、目録の整理、撮影、所蔵者や伝来、模写者等の情報を収集すべく、模本リストの整理に着手した。調査順は列番号順を基本として進めた。

上記により情報蓄積を進め、個別作品の伝来情報の充実を図りながら、個別の作品に即しながら、研究論文等を執筆した。

その際、特に留意したのが「絵巻の時間的・空間的移動」、「絵巻の鑑賞とその背景」という二つの視点である。

前者の視点は、絵巻が特に活発に移動する時期（現状の想定としては戦国期、豊臣政権期、徳川政権初期、幕末明治期、大正期、戦後）を、資史料をもとに実証的に捉え、その文化史的・社会史的・経済的背景を踏まえた上での検証を試みるものである。対して後者の視点は、絵巻がそれぞれの時代に、いつ、どこで、誰が、どのような状況で観たのかを、鑑賞をめぐる人的ネットワークや鑑賞された場に特に着目しつつ、分析を進めるものである。

4. 研究成果

本研究により得られた最も大きな成果が、先に述べた絵巻伝来資料の収集である。とりわけ、

文献資料記載絵巻関係資料の抜出とデータ化

売立目録の調査

によって得られたデータに関しては、前者は約2万件のデータが、後者は絵巻、およびやまと絵関係のデータをあわせ1万件以上のデータ数を集積することができた。

これらのデータは、研究協力者の協力のもとデータベース化に向けての入力作業を並行して行っており、公開に向けた準備作業を協議している段階である。データベースの公開は対象とした資料を所蔵する東京文化財研究所のホームページ上での公開を予定している。

現在、公開に向けての技術的な協議を進めており、近時、公開の運びとなる予定である。こうしたデータベースは従来ないもので、絵巻研究にとどまらない、発展的な研究展開が見込めるものとして、大いに期待される。

また、

絵巻模本の調査

に関しては、東京国立博物館所蔵の絵巻模本の調査を進めた。調査は、当時の所蔵者や模写場所などを記す奥書を記録しつつ、撮影を行なった。現在、本研究に特化したデータベース等の公開はしていないが、東京国立博物館ホームページ上の画像検索において、調査画像の一端をご覧いただくことができる。

また、こうした絵巻模本の研究を基礎として、以下の特集展示を企画立案し、絵巻模本を公開した。こうした研究成果を広く国民に供する極めて有益な機会となったと自負する。

・東京国立博物館特集陳列「断簡 掛軸になった絵巻」平成25年7月17日～8月25日（東京国立博物館本館特別1室）

・東京国立博物館特集陳列「春日権現験記絵巻 美しき春日野の風景」平成26年7月17日～8月25日（東京国立博物館本館特別2室）

あわせて、東京国立博物館で開催される特別展においても、これら絵巻模本調査の成果を応用した図録解説等を執筆し、従来とは異なる視点からの解説を提示しえたものと確信する。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 12 件)

土屋貴裕「中近世移行期における伊勢物語絵の図様展開に関する調査研究」『鹿島美術研究 年報 28 号別冊』pp.387-397、2011、査読無

土屋貴裕・古川攝一・伊永陽子・菊池理予「前近代を中心とした子どもの衣服と性差に関する調査・研究 絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって」『服飾文化共同研究報告 2010』pp.69-74、2011年、査読無

塚本磨充・土屋貴裕「在東博親近中國山水 20 世紀中國山水畫展」『典藏古美術』(台湾・典藏出版社)No.239、pp.162-171、2012、査読無

土屋貴裕・古川攝一・伊永陽子・菊池理予「前近代を中心とした子どもの衣服と性差に関する調査・研究 絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって」『服飾文化共同研究報告 2011』pp.9-16、2012年、査読無

浅井和春・土屋貴裕「『国宝帖』を読む」『岡倉天心 近代美術の師(別冊太陽 209号)』pp.146-157、2013、査読無

土屋貴裕・古川攝一・伊永陽子・菊池理予「前近代を中心とした子どもの衣服と性差に関する調査・研究 絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって」『服飾文化共同研究最終報告 2012』pp.22-32、2013年、査読無

綿田稔・土屋貴裕・大月千冬・佐藤直子「国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻 詞書公刊ならびに影印(上)・(中)・(下)」『美術研究』410号、pp.66-87、2013、査読無。『美術研究』411号、pp.39-57、2014、査読無。『美術研究』412号、pp.37-579、2014、査読無。

土屋貴裕「太子絵伝のある空間 法隆寺伝来の二つの聖徳太子絵伝」『明日香風』pp.16-21、2014年、査読無

土屋貴裕「人と自然と美術 「クリーブランド美術館展 名画でたどる日本の美」によせて」『うえの』657号、pp.29-30、2014年、査読無

綿田稔、江村知子、土屋貴裕「続稀蹟雑纂 ポートランド美術館所蔵作品簡解(一)」『美術研究』414号、2015、査読無

〔学会発表〕(計 7 件)

土屋貴裕「メトロポリタン美術館所蔵「聖徳太子絵伝」について」東京文化財研究所企画情報部研究会、2011、東京文化財研究所

土屋貴裕「絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか-中世職人歌合絵を起点として-」第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承-研究と保存修復の現状-」、2011、東京国立博物館

土屋貴裕「鎌倉時代の高僧伝絵 対立と競合と」大阪大学大学院文学研究科芸術史講座第2回阪大東美公開講座(招待講演)、2012、大阪大学

土屋貴裕「和歌と美術をもっとよく知る のコトバ」島根県立石見美術館特別展「和歌と

美術」関連トークショー、2013、島根県立石見美術館

土屋貴裕「四天王寺所蔵六幅本聖徳太子絵伝をめぐると諸問題」東京文化財研究所企画情報部研究会、2013、東京文化財研究所

土屋貴裕「松崎天神縁起絵巻と弘安本北野天神縁起絵巻」松崎天神縁起研究会、2014、防府天満宮

土屋貴裕「嘉元本聖徳太子絵伝を絵解く」斑鳩町いかるがホール「法隆寺の聖徳太子絵伝を絵解く」2014、斑鳩町いかるがホール

〔図書〕(計 11 件)

土屋貴裕「絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか 中世職人歌合絵を起点として」東京文化財研究所編『染織技術の伝統と継承 研究と保存修復の現状(第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書)』pp.207-220、2012年、査読無

塚本麿充・土屋貴裕『東京国立博物館編「特別展 中国山水画の20世紀 中国美術館名品選」展リーフレット』、pp.1-16、2012年、査読無

土屋貴裕「祖師のおもかげ 「華嚴宗祖師絵伝」元暁絵 試論」加須屋誠編『図像解釈学(仏教美術論集4)』竹林舎、pp.213-230、2013年、査読無

土屋貴裕「歌仙絵がうまれたとき」島根県立石見美術館編「和歌と美術」展図録、pp.114-120、2013年、査読無

土屋貴裕『「特集陳列 断簡 掛軸になった絵巻」展リーフレット』東京国立博物館編、pp.1-4、2013年、査読無

土屋貴裕「聖徳太子絵伝(四幅本)について」東京国立博物館編『法隆寺献納宝物特別調査概報33 聖徳太子絵伝(四幅本)1』pp.17-22、2013年、査読無

土屋貴裕『「特別展 支倉常長像と南蛮美術」展リーフレット』東京国立博物館編、pp.1-8、2014年、査読無

土屋貴裕「聖徳太子絵伝(四幅本)と法隆寺」東京国立博物館編『法隆寺献納宝物特別調査概報34 聖徳太子絵伝(四幅本)2』pp.84-88、2014年、査読無

土屋貴裕「約束された救済の情景 二河白道図」(東京国立博物館編「クリーブランド美術館展 名画でたどる日本の美」図録、

pp.13-17、2014年） 査読無

土屋貴裕「失われた絵巻を求めて 絵巻模本の底力」同前、pp.52-53

土屋貴裕「蕨の紅葉のなぞ 深江蘆舟の「蕨の細道図」同前、pp.128-129

〔その他〕

ホームページ等

東京国立博物館

<http://www.tnm.jp/>

東京国立博物館 特集「断簡 - 掛軸になった絵巻 -」

本館 特別1室

2013年7月17日（水）～ 2013年8月25日（日）

http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1623

東京国立博物館 特集「春日権現験記絵模本 美しき春日野の風景」

本館 特別2室

2014年7月23日（水）～ 2014年8月31日（日）

http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1676

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋 貴裕 (TSUCHIYA, Takahiro)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・研究員

研究者番号：40509163